

(第三種郵便物認可)



兎野氏

神奈川代協

サイバーセキュリティセミナー

犯罪や攻撃のリスク低減

ダメージコントロールが必要

神奈川代協は5月24日に講演した。

日、サイバーセキュリティセミナーをオンラインで開催し、神奈川県警察情報セキュリティアドバイザーの兎野智喜氏が「サイバーセキュリティの現状と対策」をテーマ

に講演した。特定のターゲットに絞ってサイバー攻撃を仕掛ける「標的型攻撃」の情勢について概説した兎野氏は「近年のサイバー犯罪はパソコンに対してだけでなく、アンドロイドOSを搭載したスマートフォンを狙った標的型メール攻撃も確認されている」と指摘。パソコンだけでなくモバイル端末のセキュリティ対策の必

要性もあるとした。標的型攻撃にはメールやウェブを使ったものがあるとし、メールを使った主な手口では「ウイルスを含んだ添付ファイルを開かせる」「ウイルスを含んだウェブサイトにリンクをクリックさせる」といったものがあり、ウェブを使った手口では、標的組織が利用するウェブサイトを事前に改ざんしてアクセス時にウイルス感染させる「水飲み場攻撃」と

呼ばれるものがみられると説明。このうちのウェブを使った水飲み場攻撃では「業界関係者がよく閲覧するようなウェブサイトに改ざんされるケースがあるので注意が必要だ」と喚起した。

うかを確認することも有用とした。こうしたサイバー犯罪やサイバー攻撃への対処法については「サイバー攻撃を完全に防ぐことは難しい。リスクを低減し、攻撃を受ける前提で被害を最小限にするといったダメージコントロールが必要だ」と述べた。また、インターネットバンキングに使う端末や重要情報を扱う端末をメールやウェブの閲覧に使う端末と



岩崎氏

ハイブリッド形式で  
通常総会を開催  
大分県代協

大分県代協(町田直子会長)は5月25日、大分市の大分県立総合文化センターで通常総会を開催した。当初はリアル会場とリモートのハイブリッドでの開催を予定していたが、5月に入り県内で新型コロナウイルス感染が急拡大したため、来場者を役員10名未満に調整し、会員にはリモートによる参加を促しての実施となった。

議案決議に際し、事前に表決権行使書提出を全会員へ依頼。会費・会員資格の改定等に伴う定款変更案もあつたことから123名の正会員数に対し93名の表決権行使書が集まった。総会は、定款変更案を含む全議案が表決権行使書による賛成多数で可決・承認されたことをリモート出席の会員へ報告する、という形式をとった。

総会後は基調講演をオンラインで開催。日本代協アドバイザーで静岡県立大学経営情報学部教授の岩崎邦彦氏が「21世紀の保険代理店を考えよう」事業の再定義とマーケティングの方向性」をテーマに講演した。

同代協では「今回、大分県代協はZoomウェビナーを活用した総会・講演を初めてホストとして運営したが、今後も続くコロナ禍に対応するためにも、引き続きオンラインを活用し、経験値を重ねていきたい」とコメントした。

江戸氏